

大熊町を

端から端まで

知りつくそう!

● 第2回 陸前浜街道

大熊町を南北に縦断している道路で、街の中心より海岸寄りに位置している。旧街道・旧国道・現在の六号国道は互いに交差しながら通っていて、南は富岡町夜ノ森の境川に架かる橋で区分されている。境川の流れば昔のままかどうかは今ではわからないが、大きく蛇行したまま改修されている。

道はそこから北へ向かい、突き当たりを右へ、熊町の現在の六号国道へと出る。(熊町は昔の宿場町で、小川が道の中央を流れ、柳が両側にあつたと言われている)そこから北へ行き熊町郵便局近くの信号を右に曲がり、初発神社の横の道、現在は多くの家に囲まれ地元の人でないと分からないような道が昔の道で、まっすぐに熊川へ通じている。熊川を渡り(昔は渡し船があつた)熊町一里塚へと続く。一里塚は街道の両側にあり、一里塚の標示の間に道らしき通りが藪の中に見える。旧国道は初発神社の横の道の一つ先を左に入り、熊川を渡る。交差点は、右に行くと熊町小学校方面への上り坂になるが、旧国道は直進し、小入野交差点(通称:三角屋、最近まで大きな松の木が三本あつた)へ向う。途中で六号国道・旧街道と一緒になる。小入野交差点から東工業団地入り口の信号までは昔と同じルートとなつている。旧街道はここを右に入り、すぐ左に入ると林の中に向かう道が現れる。目印は、松が三、四本植えられており傍らに墓石がひっそりと建っている。現在は送

電線鉄塔へと続く落ち葉道となつている。そこから体育館の東側の交差点へと通じていた。この交差点を左に行けば旧街道・旧国道、道なりに右に行けば六号国道である。旧街道は坂を下り岩船へ。バス停近くには鉄分の多い赤茶けた水が湧くところがあり、昔、湯屋(岩船の湯)があつたとか。常磐線の下をくぐり、東堂山を左に見ながら五郎四郎の一里塚へと進み、そのまま双葉町へ抜ける道が昔の陸前浜街道である。相馬藩時代大名行列が通り、浪江町の大聖寺建立の人足として多くの人が朝晩急ぎ足で通つた道であり、維新戦争時薩長藩兵が進軍した道でもあつた。

ふるさと 再発見

道

私たちが生活していくのに必要な道を取り上げてみました。

昔は水くみ・洗濯・薪拾いや畑へのとおり道、または、家と家、田と田や家と田を結んでいた道。

道は文化のアクセス、希望へのアクセス。

そんな道を訪ね、むかしの事など掘り起こしてみようという企画してみました。

陸前浜街道

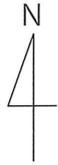
陸前浜街道 (一般国道6号線)

東京日本橋本町四丁目の道路原標を起点として、千葉県松戸市、茨城県水戸市、日立市を経て、福島県に入り太平洋に沿って、いわき市、原町市、相馬市を経て宮城県に入る。岩沼市において4号線と接続し仙台市日の出町二丁目に至る延長352kmの道路である。

(大熊町史)



五郎四郎一里塚



至双葉



今も残る旧街道



岩船の湯

旧国道 ←

東堂山 ●

● 松 墓

九人坂

国見坂とも呼ばれ、あまりにも狭く、急坂であったため、重荷や駕籠に幾人もの前引き、後押しがいるところからこの呼び名が生まれた。

(大熊町史)

情報募集!

次回は年貢道路を取り上げます。年貢道路に関する情報をお待ちしております。年貢道路にまつわるいろいろなお話をお聞かせ下さい。

三角屋

● 三本の松があつた

熊川の渡し

川の流れの中に杭を打ち込み「はよなわ」で橋板を連ねたもので出水時には板ごと流失して、尻をはしょって渡ったもので、旅人のためには小舟も用意されていたという。

(大熊町史)

熊町一里塚

江戸時代の熊町は熊駅として栄え、その北側には熊川の渡しがあり、そこを越えると道は上り坂となり九人坂と称された。その両側には今でも一里塚が残っている。

(いわき双葉相馬新風土記)

● 熊町一里塚

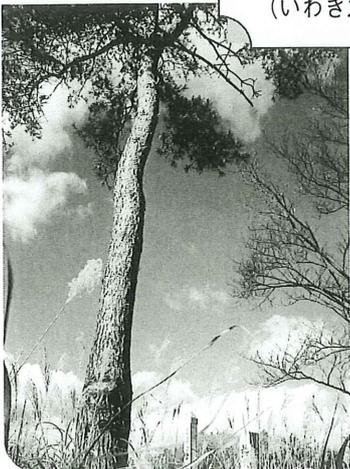
熊川

● 井

初発神社

旧国道

※江戸時代の熊駅



熊町一里塚

明治5年に「陸前浜街道」(旧国道)

6号国道

境川

至富岡



初発神社